



# がんサバイバーの“食べたい”たいを叶えるメニュー提案

別府大学短期大学部食物栄養科



## 【地域が抱える課題と背景】

1. **がん**は我が国の**死亡原因の1位**である。
2. 大分県のがん死亡率は全国平均を上回っており、**県民の生命、健康にとってがん対策は重要な課題**である。
3. **がんの通院治療中は栄養や食事管理**が患者（サバイバー）や家族、支援者の負担になり生活の質に影響を及ぼす場合がある。
4. 短期大学部の栄養士養成コースで学ぶ学生は、**がんについて学びカリキュラムや時間数が限られており、がんの病態や食事療法について学ぶ機会が少ない。**

## 【こころサポートプロジェクトの活動について】

がん診療の拠点病院である別府医療センターとNPO法人がんサロントグループ「クーナフエゴ」は別府市・日出町で「がんサロン」を開催している。令和4年度から3者の協働により食事支援の活動を始めた。



## 令和4～5年度 がんサロンでの活動

### <提供したメニュー>

- スープ類
- 野菜入りシフォンケーキ
- 味つけごはんのおにぎり 等



<良い評価を得られたが...>  
メニューの内容はサバイバーの方に寄り添ったものであったのか??? という自己反省が残った

## メニュー開発にあたって私たちが考えたガイドライン

### <考案したメニュー4つのこだわり>

- ① 栄養価が高いこと
- ② 食べやすいこと
- ③ おいしいこと
- ④ 調理に手間がかからないこと

### <素材への3つのこだわり>

- ① ファイトケミカルを使用する  
→免疫能向上
- ② 甘酒を利用する  
→発酵食品、飲む点滴
- ③ 素材の味を生かす  
→味覚の変化への配慮

### <完成したメニュー>

- ① 玄米スープ
- ② かぼちゃのポタージュスープ
- ③ 小松菜とリンゴのスムージー
- ④ 小松菜のシフォンケーキ
- ⑤ おさつきなこ  
他 栄養剤を活用したゼリー



※学生のイラストを添えたレシピを作成



## 「栄養・食事の説明と試食会の風景」



## 令和6年度の活動 ～その1～

時期	内容
7月12日～8月9日	がんサロンの視察と今後の活動の打ち合わせ(3回) ・クーナフエゴ主催 日出町「陽だまり」(2回) ・訪問看護ステーション湯のまち主催 別府市「ひとやすみコミュニティサロン」
8月21日、9月13日	食事に関するアンケート調査(2回) 別府市「Ohana」 日出町「陽だまり」
9月24日～10月4日	メニューの考案と試作
10月7日～10月8日	試食会の準備(調理)
10月9日	食事についての提案と試食会(第1回) 別府市「Ohana」
10月20日	食事についての提案と試食会(第2回) 「ひとやすみコミュニティサロン」
11月17日	食事についての提案と試食会(第3回) 「ひとやすみコミュニティサロン」 ※栄養士として活動している卒業生2名の参加あり

## 令和6年度の活動 ～その2～

時期	内容
12月8日 【演説】	第24回大分県栄養士学会にて現在の活動を口頭発表 がんサバイバーへの“食べたい”を叶えるメニュー提案 発表者:白根志緒梨 畑野美智子 平田真唯 会場:別府大学 主催:大分県栄養士会
12月11日～15日	クリスマスのお菓子和ミニチュアリースをサロンへ届ける(3か所) 【クーナフエゴ主催】 ○別府市「Ohana」 ○日出町「陽だまり」 【訪問看護ステーション湯のまち主催】 ○別府市 「ひとやすみコミュニティサロン」

## 【活動を通しての考察】

1. 病状や個々人の背景もあり、食への思いを叶えることの難しさを実感した。
2. 栄養や食を専門とする者のがんサロンへの参加には意義を感じた。実感した。
3. 今後も病態を含めて食事や栄養に関する学びを深めていきたい。

## 【食事療法研究会のメンバー】

- 【別府医療センター】井上祥明 玉野緋呂子  
【クーナフエゴ】武石好春 高橋恵  
【別府大学短期大学部 食物栄養科】  
白根志緒梨 畑野美智子 平田真唯  
鹿島胡海 平田明音 藤田千尋 安本愛梨  
岡本昭 藤岡竜太 浜野香奈



